

『新 言語文化』（言文 704）年間学習指導計画作成のための資料

科目 言語文化	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	
	使用教科書・副教材等	『新 言語文化』（三省堂）

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4	入門	2	<p>「千年の時が与えてくれる安堵」</p> <p>●言語文化の現代的な価値を考える</p>	<p>1 文章を読み、概要を把握する。</p> <p>2 文章を三つに分け、小見出しをつける。</p> <p>3 筆者が『枕草子』から読みとった、現代にも通じるテーマについて、具体的に説明する。</p> <p>4 文章の題名がもつ意味について考える。</p> <p>5 文章をふまえ、中学校までの古典の学習を振り返り、気づいたことや考えたことを意見交換し、高校での古典学習への意識づけを図る。</p> <p>6 「言葉の響き」を音読し、歴史的仮名遣いにふれる。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 読む イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。</p> <p>例) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
4 ～ 5	1 読書は生きる力 — 読書の意義について考える	9	「枕草子 春はあけぼの／ありがたきもの」 ●文章に表れたものの見方・考え方を捉える	1 「春はあけぼの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 筆者が「をかし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 3 「ありがたきもの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 4 筆者が「ありがたし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 5 身のまわりの物事から「をかし」「ありがたし」と感じることを探し、文章にまとめる。 ※広がる読書「作家とよむ『枕草子』」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。 我が国の言語文化 カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力・判断力・表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。 イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。	知識・技能 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、読む(1)ア、の場合
			「故事二編 虎の威を借る／朝三暮四」 ●慣用的な表現を捉える	1 「虎の威を借る」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる 3 「朝三暮四」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 4 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる。 5 二編の故事から生まれた成語の用法について話し合う。	ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。 イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。	
			「ゴール」 ●物語の解釈の多様さを考える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 登場人物の言動から感じられる印象を書きとめる。 3 文章の結末について考えをまとめる。 4 登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。 ※広がる読書「背表紙がキラリと光って見えるんです」		
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
5	春を切り抜く	2	「フォトレポートに表す」 ●構成や描写を工夫する	<p>1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。</p> <p>2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。</p> <p>3 春に関する言葉や風物詩、伝統行事やイベントなどの題材を取り上げて調べる。</p> <p>4 調べていく中で、初めて知ったことや伝えたいと思ったことを書きとめる。</p> <p>5 題材についての写真を集める。</p> <p>6 構成や描写を工夫しながら、フォトレポートを作る。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。</p> <p>◆ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
6 ～ 7	2 物語は無限に展開する — 構成や展開について考える	9	「沙石集 児の飴食ひたること」 ●物語を構成する要素を捉える	1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。	知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。
			「説苑 景公之馬」 ●物語の全体構成を捉える	1 文章を音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 2 「晏子」の発言や行動の意図を考える。 3 「晏子」の発言の内容を整理する。 4 「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。 5 文章の内容を完結にまとめ、発表する。	我が国の言語文化 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 思考力・判断力・表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
			「羅生門」 ●物語の展開を把握する	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。 ※広がる読書「作家とよむ『今昔物語集』」	ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 ◆イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、読む(1)ア、の場合
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
7	夏を切り抜く	2	「短歌・俳句に表す」 ●素材のよさや味わいを生かす	<ol style="list-style-type: none"> 1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 夏に関する素材を探して調べたり観察したりする 4 素材について感じたことや思ったこと、発見したことなどを書きとめる。 5 表現を工夫して、短歌や俳句を作る。 	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。</p> <p>❖ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◇言語活動例	評価規準
9 月 10	3 言葉は時空をかけめぐる —言語文化の継承と創造について考える	9	「伊勢物語 芥川／筒井筒」 ●物語に表れた心情表現を考える	<ol style="list-style-type: none"> 「芥川」を音読し、訳文を参考にして大意を捉える。 前半部の「男」の行動を整理する。 和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。 「筒井筒」の段を音読し、大意を捉える。 「筒井筒…」「比べ来し…」の和歌から、「男」と「女」の心情を読み取る。 「風吹けば…」の和歌を聞いた男の心情の変化を読み取る。 「芥川」「筒井筒」を描いた絵と、文章との関係について話し合う。 <p>※広がる読書 作家とよむ 『伊勢物語』東下り</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 読む エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。</p> <p>オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。</p> <p>◇エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする。</p>	<p>知識・技能 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解したり、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)オ、読む(1)エ、の場合</p>
			「和歌十首 小倉百人一首より」 「短歌七首 近代・現代の短歌」 ●作品世界を豊かに想像する	<ol style="list-style-type: none"> 十首の和歌を音読する。 十首の和歌に表現された内容を、自分の言葉で簡潔にまとめる 七首の短歌を音読する。 七首の短歌から、一首を選び、歌が詠まれた背景を想像し、メモする。 「和歌十首」「短歌七首」の中から一首を選び、歌が詠まれた背景や心情を想像しながら、物語を書く。 	<p>オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。</p>	
			「野焼」 ●言葉と文化の関係を捉え直す	<ol style="list-style-type: none"> 文章を通読し、概要を把握する。 文章中の表現から、筆者の考え方を説明する。 「野焼」に対する筆者の見方がどのように変化したか、まとめる。 文章の中から、火について描写した特徴的な表現を抜き出す。 「野焼」という行為について、考えたことを話し合う。 <p>※広がる読書「豊かな日々を歳時記と」</p>		
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
10 ～ 11	4 人の心は万華鏡 — 人物像や心情について考える	9	「オムライス」 ●心情表現の多様さを捉える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 特徴的な表現をもとにしながら、「男の子」の心情を説明し、心情の変化を捉える。 3 「本」を拾ったことをきっかけに、「男の子」がどのように変化したかを捉える。 4 語り手を変えて文章の一部を書きかえる。 ※広がる読書「アマガエル」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。 我が国の言語文化 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。	知識・技能 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
			「十八史略 鶏口牛後／先従隗始」 ●言語表現の多様さを捉える	1 「鶏口牛後」を音読し、大意を捉える。 2 「鶏口」「牛後」が何をたとえているか、説明する。 3 「蘇秦」は比喻を用いて、何を述べたかったか、まとめる。 4 「先従隗始」を音読し、大意を捉える。 5 「死馬」「生者」が何をたとえているか、説明する。 6 「郭隗」の比喻を用いた発言の巧みさについてまとめる。 7 登場人物が比喻表現を使用した意図を考える。	思考力・判断力・表現力等 読む イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 ◆イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)エ、読む(1)イ、の場合
			「平家物語 木曾の最期」 ●人物像を批評する	1 文章を音読し、大意を捉える。 2 文章中の表現から、「義仲」の各場面における心情を捉える。 3 文章中の表現から、「兼平」の心情の変化を捉える。 4 「兼平」の発言を比較し、「兼平」の心情や「義仲」への思いについて説明する。 5 「義仲」「兼平」の人物像について意見を交流する。 ※広がる読書「作家とよむ『平家物語』」		
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
11	秋を切り抜く	2	「詩に表す」 ●語句や表現技法を吟味する	<p>1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。</p> <p>2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。</p> <p>3 秋に関する体験や思い、発見、感じたことなどを書きとめる。</p> <p>4 効果的に伝わる語句や表現技法を用いながら、詩を作る。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>❖ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)イ、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
11 ～ 12	5 共感 は海を 越える — 言語文化 の交流 について 考える	9	「漢詩四編」 ●作品の背景を想像する	1 漢詩を音読する。 2 四編の漢詩の中から、印象に残った一行を選び、その理由を説明する。 3 それぞれの漢詩の心情を、漢詩が作られた時代や作者の背景をふまえて捉える。 4 四編の漢詩の中から一編を選び、感想や印象を文章にまとめる。 ※広がる読書「翻案 漢詩から詩へ」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。	知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
			「待ち伏せ」 ●物語の役割を考える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 文章中の表現をもとに、「いま」の「私」の心情について、考えをまとめる。 3 文章中の表現をもとに、「私」の心情の変化を捉え、説明する。 4 「私」が戦争の話を書き続けている理由について、考えをまとめて話し合う。 ※広がる読書「翻訳の神様」	思考力・判断力・表現力等 読む エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	思考・判断・表現 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。
			「インタビュー 『人間』を描きたい」 ●言語文化の価値を捉え直す	1文章を通読し、概要を把握する。 2 野村萬斎が海外公演を行う意図や、狂言を通して海外で伝えたいことについて考える。 3 野村萬斎が「解脱」という言葉を通して、どのようなことを述べようとしているか考える。 4 聞き手が、どのような聞き方の工夫をしているか、指摘する。 5 日本の伝統的な言語芸能が海外でどのような評価を受けているか、新聞記事を参考にしながら話し合う。	◆ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ア、読む(1)エ、の場合
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◇言語活動例	評価規準
1 2	6 文学は主張する —世界に対する認識のあり方について考える	9	「徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく」 ●身のまわりの物事を批評的に捉える	1 「神無月のころ」を音読し、大意を捉える。 2 「柑子の木」を見た筆者の思いを捉え、筆者の考え方を読み取る。 3 「家居のつきづきしく」を音読し、大意を捉える。 4 「後徳大寺大臣」の例に対する「西行」の考えと比較しながら、筆者のものの見方について考える。 5 文章から家のつくりを読み取り、図に描く。 6 「神無月のころ」と「家居のつきづきしく」を読み比べて、共通点を探し、本文を引用しながら文章にまとめる。 ※広がる読書「作家とよむ『方丈記』」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。 我が国の言語文化 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。	知識・技能 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 思考・判断・表現 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。
			「なめとこ山の熊」 ●物語を批評的に捉える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 「小十郎」が出会った「熊」たちとの関わりや思いについて、それぞれ整理する。 3 「荒物屋の主人」と「小十郎」の関係性を整理する。 4 「小十郎」の死後、「熊」との関係がどのように変化したか、話し合う。 5 前項の話し合いをふまえ、自分の考えをまとめる。	思考力・判断力・表現力等 読む ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ウ、読む(1)ウ、の場合
			「論語八章」 ●ものの見方・考え方を振り返る	1 八章の論語を音読し、大意を捉える。 2 好きな章を選び、主張されていることを自分の言葉で言いかえる。 3 前項の作業をしていく中で、考えたことを話し合う。 4 好きな章を選び、その章が自分とどのように関わるか考え、自由に表現する。 ※広がる読書「作家とよむ『論語』」	オ 古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする	
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
2	冬を切り抜く	2	「随筆に表す」 ●表現効果を高めようとする	<p>1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。</p> <p>2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。</p> <p>3 随筆のテーマとして、自分の体験や見聞から、印象に残っているできごとを取り上げる。</p> <p>4 どのような視点や切り口からそのテーマを取り上げるか考える。</p> <p>5 テーマを吟味して、自分の見方や考え方、感じ方を見つめながら、表現内容を考える。</p> <p>6 その場になかった人にも様子や物事の経緯が伝わるように注意しながら、随筆を書く。</p> <p>7 自分の思いや考えが効果的に伝わる文章になっているかなどに注意しながら、文章を推敲する。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>❖ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)イ、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
2 3	選択総合 言葉をつなぎ出す —言語文化と自分とのつながりについて考える	6	<p>「サーカス」 「コーヒーカップ」 「神様」 「夢十夜 第一夜」 『『おくのほそ道』を歩く』 「月の誤訳」 「土佐日記 門出」 「雑説」</p> <p>●自らの課題を決め、解釈、批評、表現を追究する</p>	<p>1 探究するテーマと作品の組み合わせを決める。 *テーマと作品は、単独で考えてもよい。 *作品は、この単元以外で学んだ作品や、自分の関心のある作品でもよい。</p> <p>2 活動の方法を決める。</p> <p>3 選んだテーマ、作品を用いて、活動を行う。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。 カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。 イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>読む ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。</p> <p>◆ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・〔知識・技能の評価規準〕+〔思考・判断・表現の評価規準〕+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)ア、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		